華僑華人を担い手とする中華文化の伝播に関する中文研究

Previous research on the spread of Chinese culture with Overseas Chinese as the bearer in China

張　　禎黎

Zhang Zhenli

長崎大学多文化社会学部・多文化社会学研究科『多文化社会研究』 2022年第 8 号　抜刷

華僑華人を担い手とする中華文化の伝播に関する中文研究

長崎大学多文化社会研究科　張　　禎黎

Previous research on the spread of Chinese culture with Overseas Chinese as the bearer in China

Zhang Zhenli（Nagasaki University）

Abstract

According to the development of China, China and Chinese culture are becoming more and more familiar to the world. And as the bridge between China and other countries, Oversea Chinese has gradually been noticed by scholars. In order to further understand the status quo, it will be divided into four parts to summarize and review the scholars' research. They are Overseas Chinese disseminating Chinese culture, Chinatown as a place for disseminating Chinese culture, Chinese culture itself and the trend of overseas dissemination.

Key Words: Overseas Chinese in Japan, Chinatown, Chinese culture, Overseas dissemination

研究資料

1．はじめに

本稿の目的は、21世紀に入ってからの中国における、中華文化の海外伝播に関する中文研究を分類し考察することである。中国における中華文化をテーマにした論考は、主に四つの分野に分類できる。第一に、中華文化を海外へ伝播する担い手としての華僑華人に関する研究である。本稿では、21世紀以降の華僑華人をテーマにした中国における研究動向を考察する。第二に、中華文化が海外に伝播した場所・地域社会に関する研究である。本稿では南京町に関する研究上の論点を検討する。第三に、中華文化の中の伝統文化に関する研究である。本稿では、中秋節に関する研究である。中秋節の歴史を整理した上で、中秋文化の海外伝播について考察する。第四に、中華文化の中でももっとも知られている食文化の海外伝播に関する研究である。食文化の海外伝播と華僑華人の関係を検討し、中国の文化伝播の実態を中国語論文・文献から考察し、神戸南京町の食文化を人類学的に考察

するうえでの視点を、中国研究者の論考から明瞭にしたい。

2．華僑華人に関する研究

中国における華僑華人に関する研究では、社会学の視角からの考察が主流である。2000年代に入ってから、日中関係の変容と現代中国の急成長を背景にした華人華僑研究が一定の研究ジャンルを形成してきた。こうした国際環境の変化に伴い、新華僑華人の社会文化やアイデンティティの変容をテーマにした社会学研究も増えている。21世紀に入ってから20年が経過した現在では、中国における華僑華人に関する研究は、日中関係に着目する国際政治学・政治史からのアプローチや華僑華人の社会変遷に着目する文化人類学からのアプローチという二つの領域において注目される。

2．1．日中関係の視座―国際関係、政治要因

日中関係に着目した華僑華人研究では、郭玉聡や鞠玉華が代表的である。郭玉聡は「日本華僑華人の人数の変化とその原因（日本华侨，华人的数量变化及其原因）」（2004）の中で、1893～2000年の在日華僑華人の人口変動の要因を分析した。日本政府の外国人登録政策や国籍法の制度的変化、華僑華人のナショナリズムなどの政治的要因が、華僑華人の流動性の変化を左右する原因として挙げられる。郭は、とくに日中関係の変化が華僑華人の動態を左右する最大の原因と指摘した。郭玉聡は台湾出身華僑華人の動態についても政治的な要素に着目している。「日本華僑華人の次世代のアイデンティティ――神戸にいる台湾出身の華僑華人を例として（日本华侨华人二、三代的民族认同管窥――以神户的台湾籍华侨、华人为例）」（2005）の中では、台湾出身の華僑華人を対象にし、政治的な要素に着目して大陸出身の華僑華人との差異について考察した。台湾出身の華僑華人は大陸出身の華僑華人と自己認識の面で違いがあるという通説に対し、大陸出身者も台湾出身者も華人という意味では自己認識に差異はない、と郭は主張する（郭、2005）。台湾出身者と大陸出身者の在日華僑華人のアイデンティティに変容や変化をもたらす、両者間にみられる差異の最大の原因は政治情勢に帰結するという。

鞠玉華は、21世紀初頭に新華僑華人の社会に着目した最初の中国人研究者のひとりである。代表的な論文として「近代在日華僑華人の現地化について（近代日本华侨华人的同化现象论析）」（2003）、「在日新華僑華人の状況やそれからの発展について（日本新华侨华人

状况及未来发展走向论析)」(2006)、「在日新華僑華人の“国のため”の方式や特色（日本新华侨华人“为国服务”方式及特色论析)」(2008)、「在日新華僑華人の愛国心や“国のため”の活動――1980年代から1990年代までの留学生を中心に（日本新华侨华人的眷国心态为国服务论析――以20世纪80-90年代出国留学者为中心)」(2009）がある。鞠玉華はこれらの論文の中では、在日新華僑華人の愛国心、社会状況や問題について議論している。2010年代に入ると、鞠玉華は郭玉聡と同じく、政治情勢、とくに日中関係に焦点をあて研究を行っている。鞠は「日中関係が在日華僑華人に与えた影響(中日关系对在日华侨华人的影响)」(鞠 2013）や「日中関係や在日華僑華人（2012-2014）（中日关系与在日华侨华人（2012-2014))」(鞠 2015）の中で、日中関係の異なる時期での在日華僑華人の自己認識、愛国心がいかに変容してきたのかを実証研究した。安倍晋三政権が2012年、魚釣島（尖閣諸島問題）の国有化を断行し日中関係が悪化し、政治のレベルだけでなく、日本社会全体の中国に対する意識、態度も一変した。日中関係全体のこうした状況は、在日華僑華人の生活環境にも直接的な影響を与えた。例えば、職場で華僑華人に対する差別が目立つようになり、中華料理店や同文学校に対する悪質な犯罪も出たという（鞠 2015)。

日中関係に着目した華人華僑研究では、劉光耀の「日中関係のもとで在日華僑華人の役割や作用(日本华侨华人在中日关系中的角色与作用)」(2016) がある。劉はこの論文の中で、在日華僑華人の状況を紹介した上で、日中関係における華僑華人の役割を考察した。しかし、この論文は、魚釣島事件に関する紛争と日中関係の冷却の影響を基に考察しているが、この事件が発生した日中両国の歴史的関係や背景、さらにその後の日中関係と在日華人華僑の生活についての考察は十分に検討されていない。

2．2．新華僑華人の社会文化の変容

新華僑華人の社会と文化をテーマにした社会学的アプローチの研究も増えている。劉華昆、朱慧玲や李琴の研究はその代表例である。劉華昆は、「日本社会での新華人の適応状況（日本新华人社会适应状况研究)」(2012）の中で、華人全体を対象に、日本と華人の文化の差によって生じた差別問題、例えば中国人が差別的な社会的地位に置かれて、職場などで差別を受けた問題について実態分析した。この論文は、主に文献資料や中国側の新聞記事などに基づいているため、新華僑華人社会だけでなく日本社会全体に対する誤解が少なくない。

朱慧玲は『日中国交正常化以来の日本における華僑華人社会の変遷（中日关系正常化以

来日本华侨华人社会的变迁)』(2003)の中で、留学生、就職者や日本人の配偶者たちを研究対象として、在留カードの分類から華僑華人の法律的な地位や国籍問題について分析した上で、新華僑華人の社会発展や変容について考察した。前述の劉華昆論文と異なっている点は、朱は日本での留学経験があり、文献資料だけでなく、現地調査も踏まえた上で、より客観的な研究成果をまとめていることである。

李琴の「在日新華僑華人と現地社会との交流や融和(在日新华侨华人与当地社会的交流与融合)」(2018)は、新華僑と地域社会の関係性に焦点を置いた現地調査結果を基にした研究である。1990年代以後とくに2000年代に入ってから、新華僑の進出によって、日本の華僑華人社会と地域社会の関係は大きく変化してきた。その変化の一つとしては、華僑華人と現地社会との交流が様々な意味でより多様に深化し、「共生の時代」に入ったことである(李琴 2018)。華人華僑と日本社会の関係が変容を遂げ、新段階に突入したという認識の下、李論文は新中華街の事例として東京都の池袋中華街を調査し、「ネットワーク型」の文化コミュニティという新しい華人華僑社会の類型を提示した。大学教員による華人教授会や出版社の僑報社のような新華僑組織団体は、在日華僑華人の現地化をさらに推進し、在日華人華僑の地位向上と現地社会との融和に貢献してきた。こうした「ネットワーク型」のコミュニティが冷え込んだ日中間の文化交流の促進などの、下からの交流において重要な役割を担ったと指摘している。李論文は、現在の華僑華人が直面する「地域社会との共生」という課題に対して、新華僑華人コミュニティの特徴と構造を探究することにより、新華僑華人コミュニティの新たな機能と役割を見出そうとしている。

地域別の華僑華人社会研究では、神戸の華僑華人をテーマにした過放の「日本神戸の華僑華人に関する研究の概論(日本神户华侨华人研究史概论)」(2001)がある。過放は本論文において、神戸の華僑華人に関する研究を1970年代、1980年代、1990年代という三つに時期区分し概観した上で、華僑華人社会の課題を展望している(過放 2001)。2000年代初期より、現在華僑華人社会とその研究状況も大きく変化しているが、過放の研究、とくに神戸華僑華人のアイデンティティについての研究は、1990年代末まで歴史や経済史を中心とする在日華僑華人研究に社会学の視点から新たな学際的アプローチの可能性を示唆した。

2.3. 文化人類学、アイデンティティの視座

文化人類学の視角から、アイデンティティの変容を扱った研究として、陳志明の「海外華人:移民、飲食とアイデンティティ(海外华人:移民,食物与认同)」(2018)がある。

陳志明は、中国料理が地域社会で現地化するプロセスの中で、中華伝統飲食の継承・維持に果してきた宗教の役割や、移民や文化のグローバリゼーションが中華料理店や中国料理の伝統を継承した、新たな文化として再創造することに影響を与えることから移民、飲食とアイデンティティの関係を実証した（陳 2018）。

曹雨は陳志明の研究を踏まえて、「海外華人の飲食文化の中のアイデンティティ（海外华人的饮食文化自我认同）」という論文に自説を展開している。この論文では、マレーシアのニョニャ料理（娘惹菜）とアメリカ式の中華料理（美式中餐）の二つの例を主に考察している。各地域の華人の生活体験と異文化体験と繋がることで、彼らの自己認識から、飲食文化の表象を通じて海外華人のアイデンティティが形成されたと調査を基に結論づけている。アイデンティティの形成には、華人自身の自分史的な歴史経験も重要な要素として考えられる。海外華人はそれぞれの出身地域によって、中華料理に対して異なるアイデンティティを持つこともあれば、華人全体で中国料理・中華料理を通して共通するアイデンティティが表出されることもある。それは中国料理の中に具現化された中国の哲学でもあると推論している（曹 2019）。

3．新華僑華人と地域 ―南京町/中秋節に関する研究―

中国の研究者間では、南京町に対する認知度や関心が低いため、この分野の研究蓄積は少ない。

王小栄は建築学の視角から南京町の認識方法と形式について研究を手がけている。「中国伝統文化は中華街での伝承や認識――日本神戸市南京町に対する認識方法について（中国传统文化在“唐人街”的传承与认知――关于日本神户市南京町认知方法的研究）」（2013）の中で、外国人が中華街を認識するために、建築の様式だけではなく、中国の伝統文化の要素、例えば、思想、民俗、生活様式や経営方針なども、大きな役割を果たしているという。

日本での研究成果としては、文化人類学から日本の中華街を考察してきた王維の『華僑の社会空間と文化符号～日本中華街研究～』が代表的な研究である。王維はこの中で、神戸華僑の社会空間を祭祀文化の視座から詳細に考察した。とくに春節祭を例として、南京町の文化について記号・表象の再創出についての分析結果とその考察を基に、華人文化が地域社会で創造される動態的なプロセスを明らかにした（王維 2014）。主に春節祭を事例として考察しているが、中秋祭に関する詳細な分析・考察は今後の課題であり、南京町の

中秋祭については、中国研究者、日本の研究者双方にとって、深耕すべき共通の研究分野である。

華僑と日本の地域社会との関係性を問う文化人類学的研究としては、辺清音の「飲食文化とチャイナタウンの祭りの再創出（饮食文化与唐人街节日庆典之再造）」（2019）がある。辺は文化人類学のアプローチを用いて、南京町とともに歴史を歩んできた人々の生活から、文化活動まで詳細な調査を実施した。南京町のグルメ祭りの歴史の中に、中日両国の民俗文化の繋がりを見出し、中秋節イベントが南京町における華僑と日本人に対する意義や影響を分析した。中秋節は中国と日本に共通する飲食文化を活用し、南京町経済発展の推進力となっていると指摘している（辺 2019）。

現在、中国における南京町に関する研究は主に上記の通りである。しかし、中国との関係が深い神戸華僑社会内部の文化活動が活発的であり、文化活動の中心となる南京町には、未開発の研究資源が潜んでいるため、今後さらなる研究が必要とされる。

中秋節は伝統的な風習として、中国ではこれまで主に文学、民俗学の分野で研究が行われてきた。中秋節について、海外への伝播に主眼を置いた研究成果が少ない。例えば、中秋節に欠かせない食べ物としての月餅について、「月餅の変遷（一块月饼的变迁史）」（2019）では、中国における月餅の持つ文化的な意味変容について考察している。孫月紅は「中秋節の民俗活動の中の日中文化の差異（从中秋节节俗看中日文化差异）」（2018）の中で、日本の中秋節は中国から伝来したものであるが、いろいろの差異があることを指摘し、中秋節の考察を通して日中の文化的差異を理解すれば、異文化と接する日本、中国の人々との相互交流は容易になるのではないかと示唆している（孫 2018）。

中国文化の伝播とともに、中国の代表的な祭りである春節は、中国人や在外華人だけの祝日ではなくなり、海外各地域の祭りの文化として定着しつつある。近年、世界各地で行われる春節祭は、中国文化のグローバルな伝播の象徴的な現象である。海外に伝播した中国の祭り文化は春節だけではなく、中秋節もその一つである。

趙琳と瞿祥涛は「中秋節の世界的な開催から見る中国伝統文化の海外伝播（从全球过中秋看中国传统文化的海外传播）」（2017）という論考の中で、中秋節の分析を通して近年、中国の経済発展や文化の海外伝播に伴う、中国伝統文化の国際的な影響力について分析した（趙琳・瞿祥涛 2017）。潘昭宇の「『一帯一路』戦略から見る中秋節文化の海外伝播（“一帯一路”战略下中秋文化的海外传播）」では、「一帯一路」の戦略として、中秋節文化の海外伝播についていくつかの提案が提示された。例えば、中秋文化を持つ文化製品（月餅な

ど）を開発し、物を通じて中華文化の海外伝播を更なる促進することができる（潘 2018）。いずれも現在のグローバル化する大国中国が抱える政治的な問題が背景にある。中国の国際的な影響力が急激に拡大する一方で、他方では「一帯一路」戦略の現状が示す通り、現地の地域経済、社会文化の摩擦も増長されていく。こうした背景の中、華人華僑と伝統文化の伝播は現地コミュニティとの融和のキーワードになっている。

4．食文化と海外伝播に関する研究

グローバリゼーションの時代に入ると、中国文化の海外伝播は、伝播形態が多様化し、内容も豊富になったため、中国におけるメディア論の視角から海外伝播に関する研究も増えている。その特徴として以下の２点があげられる。

第一に、中国食文化の海外伝播の方式は、中華街を中心とする華僑華人の活動からインターネットを媒介にした映像コンテンツへ変化してきたことである。

従来、華僑華人による文化の伝播について、羅晃潮の「中華食文化の海外伝播（中华饮食文化的海外传播）」（1997）では、特色がある中華食文化は、華僑華人が海外移住した後、経済的な支えの一つになり、意識的ではなくとも中国食文化が自然に現地に社会に伝わることがあると指摘している。夏海淑・王暁楠の「中国食文化を伝播している海外中華料理店（传播中国饮食文化的海外中餐馆）」（2008）では、中華料理店の役割について考察している。それによると、海外華人にとっては、中華料理店は食事をする場所であるだけでなく、中華料理という文化の存続、発展、文化伝播の空間でもあると指摘している。調査データによると、現在、半数以上の海外華人が依然として飲食および飲食関連業界に従事しており、イギリス、ドイツ、オランダなどの国では、この割合が80%以上にも達している（夏海淑・王暁楠 2008）。上記の二つの論文を通じて、中国食文化は華僑華人によって海外へ伝播してきた歴史があるが、現在でも華僑華人の生活と密接な文化として重要な位置を占めている。

中国文化の新しい伝播方式としての映像作品に関する研究には、謝詩慧の「ポストオリエンタリズムの下で中国食文化を題材にしたドキュメンタリーの海外伝播はいかに成功したか――『舌の上の中国』を例に（后东方主义下中国饮食文化题材纪录片对外传播如何成功――以《舌尖上的中国》为例）」（2017）がある。2012年、ドキュメンタリー映画として世界的なヒットを記録した「舌の上の中国」（A Bite of China：舌尖上的中国）によって、

外国人に言語以上に真実を訴える食文化の映像から、本当の中国のイメージを発信した。それは映像という「国際的言語」を通じて、外国人に近代化した、特色ある食文化の中国をイメージ展示していると評価している（謝詩慧 2017）。

第二に、2014年に中国が「一帯一路」政策を打ち出した後、食文化だけでなく、中国伝統文化の海外伝播も研究対象となったことである。

姚偉均は「中国食文化の海外伝播と『外に出て行く』経路（中国饮食文化传播与“走出去”的路径）」（2016）の中で、中国食文化が海外に伝播することは、中華民族の文化継承と文化的アイデンティティ、中華文化の伝播、中華民族の影響力を高めることであると強調している。中国は軍事力、経済力というハードパワーの面で米国に迫る勢いを見せている。ハードパワーにふさわしい大国文化をソフトパワーとして強化する。その意味で食文化は重要な役割を果たしていると指摘している（姚 2016）。

白晶光「中国伝統食文化が海外での伝播の影響について（中国传统饮食文化在海外传播的影响研究）」（2021）も食文化の海外伝播の国際社会への影響を論じている。中国の多様な文化は、国民の仕事や生活などに浸透し、最もよく露出する文化は食文化、礼儀文化、服飾文化、思想文化、建築文化などである。いずれの文化の海外伝播も「中華民族の偉大なる復興」においても重要な役割を演じていると指摘している。中国食文化の継承や発展、中華伝統食文化の海外伝播に伴い、外国人が中国の食文化に対する好奇心と憧れを深めてきた。中国国外の研究者も熱心に中国の飲食、とくにユニークな食文化を研究している。

以上の食文化研究に共通する特徴は、大国中国の国際政治上のパワーを意識している点である。従来、海外華僑華人の研究は、中国文化・中華文化を伝播する担い手として地域社会で活躍し、地域文化をいかに創造してきたかに問題関心が集中している。上記論文に代表される現代中国の食文化の海外伝播をテーマとする研究は、ソフトパワーの拡大すなわち、ハードパワーに見合った中国文化の創造が意識されている。中国は文化領域においてさまざまな政策を打ち出して、華僑華人だけでなく、インターネットを活用して食文化や伝統文化を含める中国文化・中華文化を世界中に広げようとしている。これは中国文化の海外伝播についての新しい研究対象となることが示されている。

5．おわりに

以上のように、中国伝統文化が海外での伝播や継承について、分野ごとに中国における

先行研究を取り上げ、研究の動向と特徴について整理してみた。これらの研究には、下記の４点の特徴と問題が提示できる。

第一に、中国における海外華僑華人研究は21世紀に入って急速に量的な蓄積が進み、研究分野や対象の広がりを見せていることである。ただし、中国での在日華僑華人に関する研究は現時点では少なく、分野も限られている。その原因の一つとしては、中国の研究者は日中両国間の歴史問題や政治的立場の影響を受けて、日本に対し政治的なバイアスが存在し研究対象の選定にも影響を及ぼしていることである。それに対して、日本における華僑華人研究は、とくに近年は日本人研究者だけではなく、日本にいる華僑華人の文化人類学、社会学、歴史学、政治学など広範な研究者による調査研究が行われている。日中関係と政治と一定の距離を置き、日本と中国の双方の政治、社会の諸事情を理解しながら、現地調査を踏まえた者が多いからである。現在、新型コロナの感染拡大の状況のなか、日中関係は新たな対抗期に向かっている。華僑華人研究にも影響を与えていると思われる。しかし、歴史上、あるいは現在も日本に伝播した中国文化（祭りや食文化）は、日中間の政治的な対立に関係なく、日本における異文化の一部として中国文化が、日本人社会に浸透し享受されている。中国文化の伝播や継承を研究課題として検討する際、日中関係の状況を踏まえた上、その歴史的な背景や文化受容の土壌、異文化融合の社会構造を念頭に入れて考察する必要があると認識している。

第二に、中国における南京町に関する先行研究が少ないことである。建築学の分野からの研究を進めたのは王小栄であり、文化人類学の視角から南京町を考察したのは日本在住の王維や辺清音の研究が取り上げられる。このように依然として日本にいる華人研究者の日本語の研究成果が中心であり、中国にいる研究者による中国語研究が希少である。より日本社会を理解するために、南京町を含む華僑華人のネットワーク研究や日中関係を踏まえた事例研究も重要ではないかと思われる。

第三に、中秋節に関する研究は、中秋節文化の海外伝播に焦点をあてて論じる文献がありものの、丁寧かつ詳細に現地調査を行った上での研究が少ない。今後の研究は、春節祭および南京町に関連する先行研究を踏まえた上で、南京町を中心に中秋節行事の実態を把握し、中国伝統文化の伝播と継承に関する研究に新たな視点の提示を試みたい。

第四に、第三点に関連するが、中国における食文化の海外伝播に関する研究は日本を中心として行われたものが少ない。南京町を中心として中国食文化の日本への伝播についての研究は、中国食文化の海外での展開全般についての研究にも意義があると考えられる。

以上の諸課題を今後の南京町と食文化の研究に反映していきたい。

参考文献

白晶光（2021）「中国伝統食文化が海外での伝播の影響について（中国传统饮食文化在海外传播的影响研究）」『食品工業』（1）：349

辺清音（2019）「飲食文化とチャイナタウンの祭りの再創出」『文化遺産』（3）：93-101

曹雨（2019）「海外華人の飲食文化の中のアイデンティティ」『浙江学刊』（5）：24-38

陳志明（2018）「海外華人：移民、飲食とアイデンティティ（海外华人：移民，食物与认同）」『北方民族大学学報（哲学社会科学版）』（4）：5-12

郭玉聡（2004）「日本華僑華人の人数の変化とその原因（日本华侨，华人的数量变化及其原因）」『世界民族』（5）：45-52

郭玉聡（2005）「日本華僑華人の次世代のアイデンティティ――神戸にいる台湾出身の華僑華人を例として（日本华侨华人二、三代的民族认同管窥――以神户的台湾籍华侨、华人为例）」『世界民族』（2）：39-43

過放（2001）「日本神戸の華僑華人に関する研究の概論」『華僑華人歴史研究』（1）：67-77

鞠玉華（2003）「近代在日華僑華人の現地化について（近代日本华侨华人的同化现象论析）」『雲南民族学院学報（哲学社会科学版）』（5）：63-66

鞠玉華（2006）「在日新華僑華人の状況やそれからの発展について（日本新华侨华人状况及未来发展走向论析）」『世界民族』（2）：38-44

鞠玉華（2008）「在日新華僑華人の“国のため”の方式や特色（日本新华侨华人“为国服务”方式及特色论析）」『海外人才与中国发展研究』（6）：509-522

鞠玉華（2009）「在日新華僑華人の愛国心や“国のため”の活動――20世紀80年代から90年代までの留学生を中心として（日本新华侨华人的眷国心态为国服务论析――以20世纪80-90年代出国留学者为中心）」『世界华侨华人研究』（2）：94-104

鞠玉華（2013）「日中関係が在日華僑華人に与えた影響（中日关系对在日华侨华人的影响）」『暨南学報（哲学社会科学版）』（8）：18-23

鞠玉華（2015）「日中関係や在日華僑華人（2012-2014）（中日关系与在日华侨华人（2012-2014））」『八桂僑刊』（1）：3-9

李琴（2018）「在日新華僑華人と現地社会との交流や融和」中国知網, https://kns.cnki.net/kcms/detail/detail.aspx?FileName=1018887719.nh&DbName=CMFD2019（2021. 9 . 26入手）

劉光耀（2016）「中日関係のもとで在日華僑華人の役割や作用」中国知網, https://kns.cnki.net/kcms/detail/detail.aspx?FileName=1016919226.nh&DbName=CMFD2017（2021. 9 . 26入手）

劉華昆（2012）「日本社会での新華人の適応状況」中国知網, https://kns.cnki.net/kcms/detail/detail.aspx?FileName=1012030791.nh&DbName=CMFD2012（2021. 9 . 26入手）

羅晃潮（1997）「中華食文化の海外伝播（中华饮食文化的海外传播）」『八桂僑史』（2）：28-32

潘昭宇（2018）「『一帯一路』戦略から見る中秋節文化の海外伝播（“一带一路”战略下中秋文化的海外传播）」『電視指南』（1）：54

孫月紅（2018）「中秋節の民俗活動の中の中日文化の差異」『現代交際』（2）：116-117

夏海淑, 王暁楠（2008）「中国食文化を伝播している海外中華料理店（传播中国饮食文化的海外中餐馆）」『今日南国』（3）：48-50

謝詩慧（2017）「ポストオリエンタリズムの下で中国食文化を題材にしたドキュメンタリーの海外伝播はいかに成功したか――『舌の上の中国』を例に（后东方主义下中国饮食文化题材纪录片对外传播

如何成功——以《舌尖上的中国》为例)」『時代報道』(24):122-123
姚偉均(2016)「中国食文化の海外伝播と『外に出て行く』経路(中国饮食文化传播与“走出去”的路径)」『文化発展論丛』(1):49-65
趙琳、瞿祥涛(2017)「中秋節の世界的な開催から見る中国伝統文化の海外伝播(从全球过中秋看中国传统文化的海外传播)」『新聞前哨』(11):94-96
王小栄(2013)「中国伝統文化は中華街での伝承や認識——日本神戸市南京町に対する認識方法について」『天津大学学報(社会科学版)』(2):131-134
王維(2014)「神戸華僑の社会空間と祭祀文化(神户华侨的社会空间与祭祀文化)」『華僑の社会空間と文化符号～日本中華街研究～(华侨的社会空间与文化符号:日本中华街研究)』中山大学出版社:113-157
朱慧玲(2003)『日中国交正常化以来の日本における華僑華人社会の変遷(中日关系正常化以来日本华侨华人社会的变迁)』厦門大学出版社
中国商業聯合会(2019)「月餅の変遷(一块月饼的变迁史)」『餐饮世界』(8):18-19